

市政に対する一般質問



中村和彦議員
〔一問一答〕

第12次市勢発展長期計画の策定プロセスは

問 中村議員 第12次市勢発展長期計画の策定に向けて、どのような手順を踏んでいこうとしているのか。

答 総務部長 計画策定のプロセスについては、係長による推進チームや課長による推進グループで素案を作成する。さらには副市長と部長等で構成する推進委員会において計画内容等を協議し、市長を本部長とする推進本部の審議を経て、計画の原案づくりを進めていく。また、推進市民会議を開催し、公募による市民を初め、産業、行政、教育、金



推進市民会議

融、労働、メディアの幅広い分野の関係者23名からの意見を反映させていく。計画案は、本年9月末を目途に策定し、パブリックコメント等を実施し、12月市議会定例会に議案として提出する予定である。

コミュニティ・スクールの導入について研究を

問 中村議員 コミュニティ・スクールについて本市でも研究議論する時期に来ていると思うが。

答 教育長 コミュニティ・スクールは、県内では現在までに9つの市町の小中学校で指定されている。また、平成29年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正があり、学校運営協議会の設置が努力義務とされた。コミュニティ・スクールの導入により期待されている、地域と連携した組織的な取組や特色ある学校づくりなどについては、現行の学校評議員制度でも十分にその役割を果たしているが、今ある仕組みを活かしながら地域に開かれた学校から地域とともにある学校を目指すために、今後本市教育委員会としてもコミュニティ・スクールの導入について調査、研究していきたい。



鶴見和弘議員
〔一括質問〕

いちごバスの利用状況は

問 鶴見議員 コットベリー号と比較して、いちごバスの利用状況はどうか。いちごバスの時間帯、目的別利用状況についても伺う。

答 総務部長 いちごバスの利用者数は、コットベリー号と比較して、1日当たり約40人の増加となっている。3月及び4月の時間帯別の延べ人数については、7時20分の運行開始から10時までは910人、15・5%、10時から12時までは1838人、31・2%、12時から14時までは1221人、20・8%、14時から16時までは1210人、20・6%、



いちごバス

16時から運行終了の17時20分までは705人、12・0%であった。次に、目的別利用人数は、病院、医院等が1834人、23・5%、商業施設が1899人、32・2%、公共施設が1193人、20・3%、その他1408人、23・9%であった。

8050問題に対する認識と対応は

問 鶴見議員 8050問題に対する認識と対応を伺う。

答 健康福祉部長 8050問題は、80代の親が50代の子供の生活を支えるという問題であり、ひきこもりの長期高齢化や精神疾患等が要因となっていると思われる、社会から孤立して支援とつながっていないことが問題となっている。まずは、ひきこもりにある本人や家族からの話を聞く場所が必要であり、県では栃木県子ども若者ひきこもり総合相談センター通称ポラリスとちぎ、本市でも真岡市障害児者相談支援センターで相談を受けている。支援に携わるひきこもりサポーターをこれまでに3名養成し、今年度からはそのサポーターをひきこもり家庭からの申請により派遣する事業を開始予定である。



大貫聖子議員
〔一括質問〕

認知症介護者への支援は

問 大貫議員 認知症介護者についての支援はどのようなものがあるのか何う。

答 健康福祉部長 認知症の方ができる限り住みなれた地域で暮らし続ける環境や社会をつくるためには家族の支援が大変重要であることから、地域包括支援センターにおいて保健師や社会福祉士、ケアマネジャーなどの専門職が家族の方々の悩みや相談等に対応するとともに、必要に応じて訪問するなど、継続的な



認知症カフェ

支援をしている。また、認知症の本人や家族の孤立を防ぐため、精神的なストレスの軽減を図る癒しの場として認知症カフェを開催している。またなか保健室、市内6カ所のグループホームやデイサービスセンター、ウエルシア店舗内で開催するなど、参加しやすい環境づくりに取り組んでいる。

第12次市勢発展長期計画の小中学生向け冊子やキッズホームページを

問 大貫議員 第12次市勢発展長期計画を策定するにあたり、小中学生向けの冊子やキッズホームページなどを作成する予定はあるのか何う。

答 総務部長 本市の最上位計画である市勢発展長期計画を子どもにわかりやすい表現でまとめた概要版を作成し、配布することは小中学生が市政に興味を持ち、将来まちづくりに積極的に参加してもらうための一つの手段として有意義な方法と思われるため、作成に向けて検討していく。キッズホームページについては、制作の予定はないが、市のホームページ内に子どもにわかりやすい表現でまとめた概要版を掲示することを検討していく。



大瀧和弘議員
〔一問一答〕

「選ばれる都市もおか」の実現に向けて

問 大瀧議員 いちごサミット開催後、「選ばれる都市もおか」の実現に向け、どのようにつないでいくのか何う。

答 市長 日本一のいちごのまち真岡を発信するため、全国いちごサミットを核として、オール栃木・オール真岡の体制で推進している。情報発信のほか、首都圏でのシティプロモーション活動を実施したことにより、真岡市の知名度向上と地域ブランド力の向上につながっていると感じている。また、本年はチャリダーが大阪に知事と一緒に訪問し、大阪でイチゴのPRにも参加した。



このような取組を含め、いちごサミット終了後もサミットのPR効果を活用し、オール真岡体制での発信により、積極的に真岡市の魅力を発信し続けていきたい。

教育長の再任にあたりこれまでの成果と課題は

問 大瀧議員 教育長に再任され、これまでの1期3年間を振り返り、取組の成果と課題をどのように分析しているのか何う。

答 教育長 就任以来、本市独自の新規事業として、年2回の真岡市総合学力調査やイングリッシュサマーキャンプ、小学校外国語活動研修会、中学生リーダー研修会、若手教員の指導力を高めるための教員支援事業などを立ち上げ、着実に実施してきた。また、子供たちの体力、運動能力の向上のため体力向上プログラムを作成し、各学校での授業等で実践している。本市においては、従来からの科学教育センターや自然教育センターに加え、ICT機器の導入等により県内トップレベルの教育環境にある。これらを生かし、県内トップレベルの学力を実現することが大きな目標であり、課題であると考えている。



日下田喜義議員
〔一括質問〕

**行屋川の環境維持・改善のため
環境美化団体の支援を**

問 日下田議員 行屋川の環境の維持改善を図るため、愛リバーとちぎへの参加団体を支援できないか。または別の環境美化機関の組織化を支援できないか伺う。

答 市民生活部長 愛リバーとちぎは、栃木県が管理する一級河川500平方メートル以上の面積において、環境美化活動を年3回以上行うメンバーが3人以上の団体を登録する栃木県の制度であり、真岡市内では五行川での活動を行う2団体が登録している。登録団体には、県か

ら活動PR看板の設置、清掃用具等の支給、傷害保険への加入等の支援があり、市では団体の環境美化活動による収集されたごみの処分を行っている。別の環境美化機関の組織化については、地域等における自主的な組織化をお願いし、ぜひ県及び市の支援が受けられる愛リバーとちぎへの登録をお願いしたい。

**地場中小企業の技術やノウハウの
市外へ向けたPRを**

問 日下田議員 真岡市の地場の中小企業等の技術やノウハウを今後どのように真岡市外へPRしていくのか伺う。

答 市長 地場中小企業が持つ技術やノウハウの市外に向けたPRについては、本市だけではなく、関係機関との協力が必要不可欠であると考えている。そのため本年度に策定を予定している真岡市中小企業・小規模企業振興計画において、商工会議所や商工会を初め、関係機関との役割を明確にしていく。この計画に基づき、さまざまな関係機関と情報を共有し、事業連携の強化を図ることにより、地場中小企業のPRについても計画的かつ組織的に支援できると考えている。



飯塚正議員
〔一括質問〕

**新芳賀赤十字病院周辺の
歩道に点字ブロックを**

問 飯塚議員 新芳賀赤十字病院周辺の一部について、歩道における視覚障がい者誘導用ブロック、いわゆる点字ブロックの設置を図ってはどうか。

答 市長 点字ブロックの設置について、現在病院周辺では中郷・萩田土地画整理事業が進められており、点字ブロックは、北真岡駅から病院までの一般県道石末真岡線や、県道から病院への進入路となる道路



芳賀赤十字病院周辺

に設置する計画となっている。設置に当たっては、点字ブロックの効果が発揮できるよう、連続して歩道が整備された箇所から順次進めていき、今年度は県道から病院ロータリーの前交差点まで及びその交差点から北側市道丁字路までの区間に設置をしていく。

**給食で使用される
小麦粉の産地は**

問 飯塚議員 アメリカとカナダ産の小麦の90%以上から、発がん性の指摘されているグリホサートが検出されている。安全な給食を提供するという給食センターの役割を果たしていく上で、現在食パンを初め、小麦粉を使用しているおかずなどは、どの小麦粉を使用しているのか尋ねる。

答 教育次長 パンについては、取引先である公益財団法人栃木県学校給食会が栃木県産小麦ゆめかおりを加工会社に卸して製造させている。また、フライ物等のおかずに関しては、国産小麦とアメリカ、カナダ、オーストラリア産等の輸入小麦が混在しているのが現状である。

愛リバーとちぎ
五行川を未来へ引き継ぐ
この川は私たちが
きれいにしています
愛リバーとちぎ活動PR看板



服部正一郎議員
〔一括質問〕

根本山を新たな観光地へ

問 服部議員 根本山を新たな観光施設として再開発できないか。

答 市民生活部長 根本山は、自然に親しみ、自然への理解を深め、自然保護思想の普及を図ることを目的に開園した。そのため、平成4年の開園以来、現状を大きく変更するような植林や伐採などは行わず、自然環境の保全に取り組んできた。結果、生態系が豊かになったことから、動植物が多く生息するようになり、



根本山

広く市民に親しまれている。今後も自然観察など自然に親しむ環境学習の場としての保全を考えていることから、開発などの特別な施策を行う予定はないが、現状においても貴重な観光資源であるため、引き続きPRを行っていききたいと考えている。

多面的機能支払交付金制度への 本市の取組は

問 服部議員 多面的機能支払交付金制度への本市の取組について伺う。

答 産業部長 多面的機能支払交付金制度は、良好な農村環境を維持するため、農地や農道のり面や水路周りの草刈り、堀ざらい等の施設の環境整備を図る活動を、農業者及び地域住民などが一体となって協働で行う国庫補助事業である。事業の実施については、現場での共同作業のほかには経理や事業実績の報告書作成などの事務処理も含め、組織の運営全般を自治会など地域で行うことになる。今後多くの地域で取り組んでもらえるよう周知を図り、事業に関心のある地域には説明会に直接出向くなど、事業の理解を深めるため、積極的に推進していく。



佐々木重信議員
〔一括質問〕

石坂市長の実績は

問 佐々木議員 市長就任以来2年間の実績を伺う。

答 市長 こどもの元気な成長プロジェクトにおいては、学力を県内トップレベルへ引き上げる取組を行うとともに、ICTを活用した学習環境の整備を図った。若い世代・子育て応援プロジェクトにおいては、民間委託による病児保育施設、西真岡シックキッズを開設した。いつまでも安心な暮らしの実現プロジェクトにおいては、芳賀赤十字病院の敷地内に真岡市休日夜間急患診療所を開設し、いちごバスの運行も開始し



真岡市休日夜間急患診療所

た。とちぎをリードする産業プロジェクトにおいては、ICT機器を導入する農家への支援を行うほか、全国いちごサミットinもおか2020の開催に向けた準備を進めている。まちの活力再生・魅力創出プロジェクトにおいては、真岡木綿会館を改修し、リニューアルオープンしたところである。このほかにも、BCP（事業継続計画）策定推進都市宣言を行った。さらに、働き方改革として、係長以上がイクボス宣言をし、県内で初めてのスニーカービジネスなど、働きやすい職場環境を整えてきた。

市長の今後の目標は

問 佐々木議員 市長の今後の目標を伺う。

答 市長 私が公約に掲げた施策にしている事業がある。今後の市政運営においては、他の自治体にはない魅力を打ち出していくことが重要であると考え、教育と子育てを軸として、さらには高齢者になっても真岡に住んでよかったと言ってもらえる特色のあるまちづくりを推進し、選ばれたる都市もおかの実現に向け、邁進していきたい。



池上正美議員
〔一括質問〕

学校給食の異物混入と 給食センターの建替えは

問 池上議員 学校給食の異物混入の件数と内容を伺う。また、給食センターの建替えについて伺う。

答 教育次長 異物混入は平成27年度が86件、平成28年度が68件、平成29年度が38件、平成30年度は40件であった。内容は髪の毛やビニール片等で、調理中や配膳中に混入したものの、納品した加工品の中に紛れ込んでいたものがある。業者に注意喚起を徹底するとともに調査・分析し、対応策を学校に報告している。

第一学校給食センターは建設から40年が経過しており、早急に建替えが必要であると考えている。

期間は、来年度から約5年間で想定している。旧真岡地区の小中学校の児童生徒、



第一学校給食センター

教職員分の人数の給食を供給できるよう、少なくとも5700食以上の給食を供給できる規模が必要になるものと考えている。

子ども食堂や フードバンクへの取組は

問 池上議員 子ども食堂の必要性や行政としての支援をどう考えるか。また、フードバンク設置の予定はあるか伺う。

答 健康福祉部長 子ども食堂は、NPO法人や民間団体等によって平成30年4月時点で全国に約2300か所が開設されており、家庭にさまざまな問題を抱えている子どもにとつて、安全な居場所になると考えている。本市では、現在まで子ども食堂の開設に当たり具体的な相談はないが、相談があった場合は、開設手順や衛生管理などの情報を参考にしていく。全国の先進事例等を参考にして支援のあり方について研究していきたい。

フードバンク活動は、食品廃棄の抑制と環境負担の低減への効果を期待しているが、生活困窮者に対する福祉ボランティアとしての自発的な活動と想定しており、市によるフードバンクの設置は考えていない。



七海朱美議員
〔一括質問〕

歴史・文化財サミット(仮称)の 開催を

問 七海議員 国の重要文化財や、新一万円札の顔になる渋沢栄一氏と真岡市のつながりなど、真岡市の魅力を知ってもらうため、歴史・文化財サミットを開催してはどうか。

答 教育次長 真岡市の文化財を多くの方々に知っていただくため、写真集の販売や真岡市文化財マップの無料配布などを行っている。また、歴史教室を年6回開催しており、参加者が1回当たり200人を超える人気事業である。渋沢栄一氏は、明治7年に真岡市柳林で農業会社の設立にかかわった一人であり、その功績について電子黒板により学習できる教材を教育委員会で作成



自然教育センターのパネル

し、市内小中学校に配付した。自然教育センターにおいても、パネルを館内に設置して来所者に説明している。現時点では歴史・文化財サミットを開催する予定はない。

自治体独自の「情報メール」の 配信について検討を

問 七海議員 防災無線は、老朽化に伴い、維持に高額な経費がかかる割に、暴風雨のときには聞き取れないこともある。自治体独自の情報メールを配信してはどうか。

答 市長 本市は、防災行政無線を整備しており、市内204カ所の拡声子局から火災情報や行政情報を提供している。あわせて防災行政無線の放送を電話で確認できるテレドームと呼ばれる火災等情報案内や防災行政無線情報案内を提供している。一方、県内においては防災行政無線のほか、メール配信にて対応している自治体もある。本市では、情報伝達の充実を図るため、新庁舎開庁後、コミュニティFMの開局にあわせ、防災、災害時の伝達手段として運用していく。今後とも災害情報提供体制の強化を図りながら、災害情報のメール配信について調査研究していく。